未来へ

The future we want

湯前中通信
R6.2.26
文責 新川

湯前中ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ

今いる場所でできること

３学期の人権週間では、全校で部落差別について学習を進めました。その学習を受け、２／２２（木）人権集会では、校長から次のような講話をしました。

・・・・「私たちと部落差別は関係のないことなのでしょうか？」

今から100年ほど前、部落差別からの解放をめざす全国水平社創立大会で世に出された「水平社宣言」は、全国にいる部落差別に苦しんでいる人たちに団結を呼びかけ、「人間は、同情ではなく、尊敬することが大切である」「自分たちを誇り、心から人生の熱と光を求めていこう」と呼びかけています。この「水平社宣言」は部落差別からの解放だけでなく、あらゆる差別からの解放をめざしていることから、「日本で最初の人権宣言」「日本で唯一の人権宣言」ともいわれています。

この宣言を書いたのは、人権運動家である西光万吉さんです。西光さんは、幼いころから、部落差別にあい、進学や就職の機会にふるさとから逃げていましたが、差別はどこにいても執拗に追いかけてくることに愕然としていました。しかし、ある時、「別の場所に理想を探すのではなく、今いる場所で何かできることがある」と、自分がいる場所で、差別に立ち向かうことを決心するのです。

西光さんが、部落差別からの解放を求めて活動する考え方の根本は、「人間を尊敬し、大切にし合うことで差別をなくしていこう」自分をさげすんだり、他の人を軽蔑したり、同情したりするのでなく、互いを尊重していこうとするものです。

この考えは、学校の教育活動の大切な柱となっています。部落差別だけでなく、あらゆる差別からの解放をめざした水平社宣言は、湯前中学校の「目指す生徒像」や各学年で実践している人権宣言に脈々と受け継がれています。こうしたことから、私たちと部落差別からの解放を目指した取組は、密接な関係があるといえます。西光さんらが、立ち上がり水平社宣言を世に出していなければ、日本中で、多くの人々があらゆる差別に苦しむことになっていたことでしょう。

私の話ですが、高校生の時、自分の出身地をからかわれ「田舎者」とバカにされた経験があります。その時、自分は、ひたすらその話題を避け、相手を正すこともせず逃げていました。ついには、自分はなぜこんな田舎に生まれたのかと、親やふるさとを恨みました。差別に立ち向かおうとせず、自分で自分をさげすんでしまう差別の罠に、まんまとはまっていきました。しかし、教師になり子供たちとともに人権学習を通して、差別と闘う人の生き方に学ぶことで、自分のふるさとを取り戻しました。西光さんに救われたといってもいいでしょう。

いろんな状況があり簡単に言うことはできませんが、今苦しんでいる人がいれば、私は伝えたい。「今いる場所で、何かできることがある」そして、「自分が伝えることで、つながる人がいる。ともに立ち上がろう」湯前中学校は、差別を許さない。そんな教育環境をみんなで目指していきます。・・・・